

別記仕様書Ⅲ

ふん尿調製管理業務

I ふん及び堆肥等運搬・調整作業【飼料生産技術G】(肉牛G、衛生G、中小家畜G)

1 作業時期

4月から翌年3月とする。

2 作業内容等

(1) ふんの運搬

畜舎施設の堆肥舎に堆積したふんをショベルローダーですくい上げ、ダンプトラックに積み、集中堆肥舎及び総合堆肥舎に運搬する。

運搬した堆肥の積み方等は、状況により業務担当員（飼料生産技術G）が指示する。

※必要に応じて（ふん及び堆肥の形状・状態を見て）前回分と混合しながら堆積する。

※輸送に当たっては道路にふんを落とさないよう注意し、一連の作業終了後は、通路や施設内を清掃する。

(2) 集中堆肥舎、総合堆肥舎の切り返し作業

4つのハウスからなる集中堆肥舎においては、ハウス間の移動によりふんの切り返しを実施する。

切り返し作業頻度等は堆肥舎の全量を対象とし、月1回（年12回）とする。

(3) 堆肥舎の管理

集中堆肥舎及び総合堆肥舎の排汁が流出しないよう、定期的に排汁溝を掃除するとともに、管理に必要な箇所の草刈りを実施する。

3 作業場所等

年間のふん搬出量は約4,000tとし、想定される搬出場所、1回の排出量及び頻度は次表のとおりとし、搬出場所の位置図は地図4とする。

なお、搬出の順番は業務担当員（飼料生産技術G）が別途指示する。

また、ふんの堆積状況に応じて搬出時期や頻度に変更される場合は、業務担当員（飼料生産技術G）より別途指示する。

家畜ふん等の搬出場所等

グループ	搬出場所	1回の搬出量	頻度	備考
肉牛G	和種馬保存厩舎	40t程度	年3回	パドック内
	肥育試験牛舎	30～70t程度	毎月	
	繁殖試験牛舎	15t程度	毎月	パドック内
	成雌牛舎	50～200t程度	毎月	パドック内
	総合検定牛舎	20t程度	毎月	
	肉牛育成牛舎	30t程度	毎月	
	黒毛肥育試験牛舎	10t程度	毎月	
	黒毛ドナー牛舎	50～100t程度	毎月	
家畜衛生G	育成試験牛舎	50t程度	年3回	
	衛生試験畜舎	10t程度	年6回	
中小家畜G	繁殖羊舎	15t程度	約6回	
	試験羊舎	5t程度	約7回	
	幼雛舎	4t程度	年7回	フェンス内
	鶏舎	5t程度	毎月	
中小家畜G	豚舎	4t程度	毎月	

ふん尿調製管理業務

4 使用機械等

ショベルローダー、ダンプトラック

※1回ふん搬出作業終了時まで、作業機械を当場に置くこととする。

Ⅱ 尿当運搬・散布作業【飼料生産技術G】

1 作業時期

5月から翌年1月とする。

なお、具体的な時期は業務担当員（飼料生産技術G）が別途指示する。

2 作業内容等

畜舎の尿溜等からバキュームし採草地等に散布する（3.3t/10a程度）

なお、年間の取扱量は約1,800m³とする。

また、冬期間に汲み取りを実施する場合は、スラリーストアに搬入する。

3 作業場所等

尿等の汲み取り場所・時期及び散布先等は次表のとおりとし、施設場所は地図5とし、具体的な作業場所は業務担当員が指示するので、業務処理責任者は確認すること。

また、鶏舎汚水柵3箇所の実施場所、順番等は汚水のたまり具合を見ながら業務担当員が指示する。

なお、散布場所は採草地及び放牧地の一部とし、業務処理責任者は粗飼料生産等業務受託者と協議すること。

また、尿等の貯留状況に応じて搬出時期や頻度は変更される場合があり、業務担当員より別途指示する。

尿等の汲み取り場所・時期及び散布先等

グループ	汲み取り場所	汲み取り時期	散布先等
肉牛G	成雌牛舎（曝気槽含む）	5・9・11月	採草地及び放牧地
	繁殖試験牛舎（曝気槽）	5・9・11月	採草地及び放牧地
	肉牛育成牛舎	7月	採草地及び放牧地
家畜衛生G	育成試験牛舎	5・9・11月	採草地
	スラリーストア	11月	採草地
	衛生試験畜舎	5・9・11月	採草地
	隔離試験牛舎	11月	採草地
中小家畜G	繁殖羊舎	10月	採草地
	試験羊舎	10月	採草地
	鶏舎（汚水柵3箇所）	5・7・9・11月	採草地
	豚舎（汚水柵）	5・11月	採草地
飼料生産技術G	集中堆肥舎	5・10月	採草地
	総合堆肥舎	5・10月	採草地

4 使用する機械等

バキュームカー（沈殿物も汲み出す能力を有するもの）

ふん尿調製管理業務

Ⅲ 作業期区分の設定

本ふん尿調製管理業務は通年の作業となることから、4月から8月までを「ふん尿調製管理業務①」、9月から翌年3月までを「ふん尿調製管理業務②」と年間の作業を2期に区分する。

乙は各期作業が終了毎に実績報告書（別紙様式5）を甲に提出し、甲の確認を受けた後、請求するものとする。